



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244(教会)  
 : (714) 527-1456(牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「日航機墜落三〇年」

以下は『羅府新報』八月13日付「日航機墜落三〇年」からのものです。事故当時、お腹にいた長男秀明さんが、亡父と同じ年齢になり、母と慰霊に訪れた。

「今年も無事に登ってきたよ」。亡父・孝之さんが好きなオレンジ色の花とビールと煙草を銘標の前に供え、静かに手を合わせた。亡父の妻・紀美さんは、「また一年一年頑張っていくので、見守っていてね」と語りかけた。あの日、東京への日帰り出張から孝之さんが戻ることはなかった。事故直後は天国の孝之さんの元に行きたいと、何度も思った。公団住宅5階のベランダに立って空を見つめた。幸せは続かないと思いつらされた。「これから先を考えられなかったし、考えるのが怖かった」。思いとどまらせてくれたのは、妊娠4ヶ月でお腹にいた秀明さん。事故から一カ月後、お腹の中がぐるぐるっと動いた。初めて感じる胎動。「ここにいるよ」と主張していた。「この子にはこの子の人生がある。元気に産まなければ」。孝之さんが亡くなって2年後の昭和62年5月、紀美さんは一才3ヶ月の秀明さんを背負い、初めて事故現場を訪れた。「暑いでしょう。この子が秀明よ」と報告した。4歳だった秀明さんが、命日の8月12日に初めて自分の足で登ったときには、あどけない姿が周囲の目を引き、取材の記者とカメラマンが殺到した。「お父さんいないんだよね」「さびしい?」。ホテルに戻り、秀明さんは紀美さんに、「ぼくはかわいそうな子なの?」と聞いた。それ以来、紀美さんは秀明さんを連れて命日に登るのをやめた。その秀明さんが「御巣鷹に登りたい」と言い出したのは、高校一年の夏、他の慰霊登山をテレビで見て、「自分もそこにいるべきだ」と感じたという。孝之さんと同じ29歳になり、「これから先を、生きたくても生きられなかった父がいる。それを考えると自分は一日も無駄にせず、しっかり生きていかなければ」と語った。

召された父親の分まで生きるのは、地上に残された者の尊い使命かと思う。ましてや亡父の年齢が自分と同じであれば、なお更である。同様に、主イエスを信じた者は、主のご意志を継続して、福音に生きることが使命である。「わたしたちはキリストの使者なのである」(2コリント五・20)とパウロは宣言するが、この使者とはキリストの使命に生きる者のことである。その意味で、主の命日を日々心に刻むことが私たちの信仰であり、聖なる務めとは言えまいか。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

